旭川永嶺高等学校野球部第７期

学年	氏　名	出身中	ポジション
２年生	橋本　両汰	旭川	内野手(副主将)
２年生	熊谷　　隼	旭川	捕手
２年生	佐々木真秀	北門	投手
２年生	松浦　康己	春光台	投手・内野手(主将)
２年生	井上　暖琉	永山	内野手
２年生	樋口　　蓮	永山	外野手
２年生	土屋　和輝	当麻	外野手
２年生	大本　優作	上川	内野手
２年生	堀　　翔瑛	永山南	外野手
２年生	青山　将大	春光台	外野手
２年生	島津　智也	美瑛	外野手
２年生	川田　永佳	広陵	マネージャー(主務)
１年生	西宮　心温	釧路景雲	投手
１年生	遠藤　涼生	東陽	外野手
１年生	船水己太朗	旭川	外野手
１年生	磯村　諒太	東明	投手・外野手
１年生	塚本健太郎	六合	内野手
１年生	深瀬　大期	六合	外野手
１年生	岡本　　塁	鷹栖	内野手
１年生	盛永　　空	春光台	投手・内野手
１年生	中山　結翔	上川	捕手
１年生	村井　陽介	旭川	内野手
１年生	山下　哉人	旭川	内野手・投手
１年生	野上　慈生	広陵	外野手
１年生	高松　侑平	広陵	内野手
１年生	國分　健生	東陽	外野手
１年生	石塚　理久	美瑛	内野手
１年生	瀧川　真虎	美瑛	内野手
１年生	山本　一葉	旭川	マネージャー(副務)
１年生	佐藤　羽優	北門	マネージャー

【５月６日の川田のノートから】

ゴールデンウィークが終わって１番思ったことは、声が出ていないことです。練習試合をたくさん行いましたが、静かだなと思ったことが何度もありました。相手チームは勝っていても負けていてもずっと声が出ていました。その圧に永嶺は負けていると思いました。このことは何度も藤田先生に注意されていることだと思います。正直なことを言うと公式戦や練習試合であんなに身近で応援できるのが羨ましいです。大会ではコロナの影響でスタンドからの応援は出来ません。ベンチメンバーしか声を出すことが出来ない中で、なんで声を出さないのだろうと思っていました。それなら、私がベンチで声を出したいと思いました。練習試合でも静かなベンチの雰囲気が嫌すぎてアナウンス席から応援しようと思ったことが何度もありました。多くの試合を見て、声を出すことを甘く見てはいけないと感じています。

私は自分の中で決めていることがあります。それは、マシンの球入れなどで「行きまーす」と声を出す場面では選手より大きな声を出すことです。そうすることで、試合で声を出せないもどかしさを発散しています。来年こそはコロナが収まり、スタンドから大声で応援できる日を楽しみにしています。明日は春大初戦。東川高校との試合です。始めから終わりまで、全力で声かけをして、初戦から良い雰囲気を作っていきましょう。そして、工業、実業など力のあるチームに負けない「勝ち続けるチーム」を目指して頑張って行きましょう。

【北見柏陽高校・羽幌高校・士別翔雲高校との合同練習】

指導陣

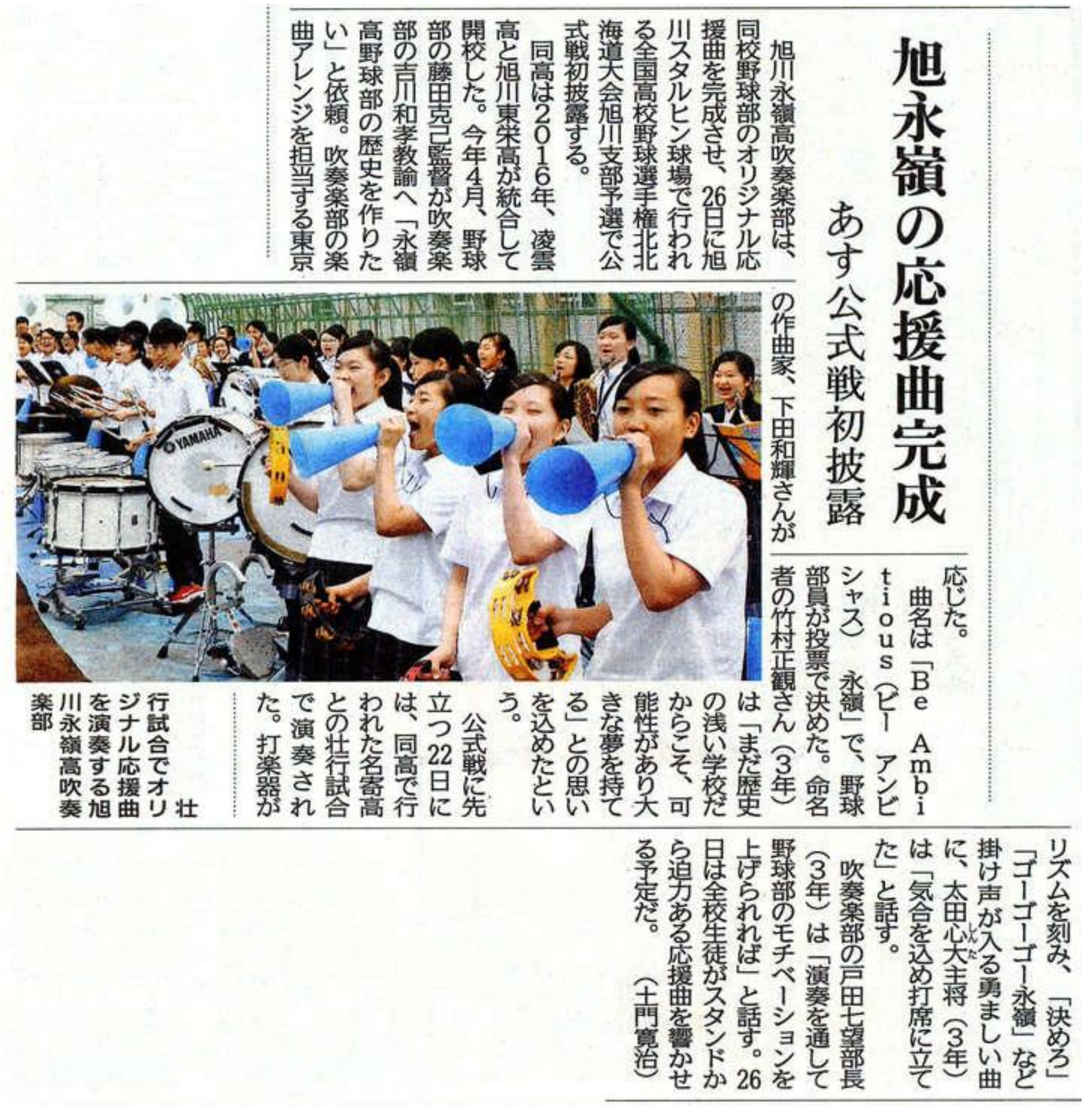
内外野別ノック

練習を支えたマネージャー

昼食はＬＣＣの協力で１日目は「カレー」、２日目は「ほうとう」

参加者全員で記念撮影

【旭川永嶺高校野球部オリジナル応援曲完成】



旭永嶺の応援曲完成

あす公式戦初披露

旭川永嶺高吹奏楽部は、同校野球部のオリジナル応援曲を完成させ、26日に旭川スタルヒン球場で行われる全国高校野球選手権北北海道大会旭川支部予選で公式戦初披露する。

同高は2016年、凌雲高と旭川東栄高が統合して開校した。今年4月、野球部の藤田克己監督が吹奏楽部の吉川和孝教諭へ「永嶺高野球部の歴史を作りたい」と依頼。吹奏楽部の楽曲アレンジを担当する東京の作曲家、下田和輝さんが応じた。

曲名は「Be Ambitious（ビー アンビシャス） 永嶺」で、野球部員が投票で決めた。命名者の竹村正観さん（3年）は「まだ歴史の浅い学校だからこそ、可能性があり大きな夢を持てる」との思いを込めたという。

公式戦に先立つ22日には、同高で行われた名寄高との壮行試合で演奏された。打楽器がリズムを刻み、「決めろ」「ゴーゴー永嶺」など掛け声が入る勇ましい曲に、太田心大（しんた）主将（3年）は「気合を込め打席に立てた」と話す。

吹奏楽部の戸田七望部長（3年）は「演奏を通して野球部のモチベーションを上げられれば」と話す。26日は全校生徒がスタンドから迫力ある応援曲を響かせる予定だ。（土門寛治）

壮行試合でオリジナル応援曲を演奏する旭川永嶺高吹奏楽部

アオハル新聞
特別号

4月9日

作成者
永嶺
マネージャー

※こんにちは。永嶺野球部です。これから入ってきてくれる一年生に早く顔と名前を覚えてもらえるように、この新聞をつくりました。マネージャーの思いを込めて、選手の紹介文を書きました。少し語弊はあるかもしれないけど、楽しんで読んでくれたらうれしいです。

主将
3年 ショート
石塚天平（いしづかてっぺい）
柔軟剤のいい匂いな
頼れるキャプテン

副主将
3年 センター
薦田悠大（こもだゆうだい）
たまに毒舌だけど
優しさピカイチ!!

3年 キャッチャー
加藤諒真（かとうりょうま）
THE野球部
THEキャッチャー

3年 キャッチャー
山舘歩生（やまだておゆむ）
怒らない器の持ち主
だけどちょっとびびり

3年 ピッチャー
佐々木光聖（ささきこうせい）
体はロック、
心もビック??

3年 ピッチャー、ファースト
谷口颯太（たにぐちそうた）
野球の知識は
部内一

3年 セカンド
高橋聖哉（たかはしさとや）
後輩思いな
いじられキャラ

3年 サード
藤田千景（ふじたちひろ）
子供心を忘れない
好青年

3年 ライト
日置昂汰（ひおきこうた）
素敵な笑顔、
誰からも
モテたいです!!

3年 レフト
長谷川力也（はせがわりきや）
野球部3年
イケメン担当

3年 ライト
鳥谷部峻吏（とりやべしゅんり）
摩訶不思議代表

3年 レフト
吉井太一（よしいたいち）
周りを見れる
頑張り屋

2年 ピッチャー
島津智也（しまづともや）
いつもニコニコ癒し系

2年 ピッチャー・ライト
佐々木真秀（ささきましゅう）
強肩!! キャッチャーミットに
しゅぱーん!!

2年 キャッチャー
若井純太（わかいじゅんた）
筋トレ、心理テスト好きの
ほんわか男子

2年 ファースト
井上暖琉（いのうえはる）
野球部一の高身長

2年 セカンド
橋本両汰（はしもとりょうた）
すばしっこい守備
奇声にはご注意を!!

2年 ファースト・サード
松浦康己（まつうらこうき）
見た目とは真逆!?、
変顔ならお任せあれ!!

2年 ショート
熊谷隼（くまがいしゅん）
野球部2年
イケメン担当

2年 サード
大本優作（おおもとゆうさく）
上川の神童

2年 レフト
青山将大（あおやままさひろ）
みんなのアイドル
ブルマン

2年 センター
土屋和輝（つちやかずき）
真面目そうに
見えて、実は
はっちゃけBOY

2年 ライト
堀翔瑛（ほりしょうえい）
見た目通りの
謙虚な優男

3年 マネ
佐藤美玖（さとうみく）
愛嬌
バクハツ
みんなの妹

2年 センター
樋口蓮（ひぐちれん）
男でもほれちゃう
言葉センスの持ち主

3年 マネ
船木柊花（ふなきしゅうか）
とってもおっとり
怒らない
実は毒舌かも…?

2年 マネ
川田永佳（かわたはるか）
趣味筋トレ
特技筋トレ
好きなこと筋トレ

【『求道』求めているものは何か】

一流の選手とはどのような選手なのか。厳しい生存競争と高い技術レベルを持ったプロ野球選手になるような人間達は体つきや素質は明らかに他の選手とは違って、ある意味規格外の人間達だ。毎年、１００名近くの野球選手達がプロになっているが、同時に１００名近い選手達が引退するか生き残れずに自由契約になっている。

結果が全ての競争社会だから現実は厳しく、長く生き残ることが出来るのは本当に一握りの選手達だけだ。甲子園で絶大な人気を得て、活躍した選手でもプロで活躍できるとは限らない。そうした厳しい世界を生き残ることができる一流選手とはどんな選手なのだろうか？

プロになるだけでも他の人にはない才能＝素質を持っているのだから、一流といわれる選手達は決してそれだけではなく、「才能（素質）×考え方×行動×夢」で決まる。つまり、才能だけで成功するのではなく、野球に対する考え方と行動（努力）が必要なはずだ。そう考えると、才能が一流でなくとも他の全てが一流であれば、一流のプロ選手になれるということだ。だから、名選手は「一人の人間」としての考え方と行動がともなう高い人間性が備わっている。

平成３０年度

千歳科学技術大学
札幌大学　３
北海学園大学　２
星槎道都大学
札幌国際大学短期大学部
北海道医療技術専門学校
北海道職員（過：学校事務）

令和元年度

室蘭工業大学　２
立命館大学
北海道科学大学
北海学園大学　２
札幌大学
奈良大学
札幌大谷大学短期大学部
北海道医学技術専門学校
札幌ｽﾎﾟｰﾂｱﾝﾄﾞﾒﾃﾞｨｶﾙ専門学校
北海道ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ専門学校
旭川料理師専門学校
北都保健福祉専門学校
浪人　３

令和２年度

旭川大学　４
北海道医学技術専門学校
日本医療大学
札幌ｽﾎﾟｰﾂｱﾝﾄﾞﾒﾃﾞｨｶﾙ専門学校
自衛官候補生
北翔大学
札幌大学
札幌大学短期大学部
北星学園大学 2(過1)
旭川厚生看護専門学校
北海学園大学(過)
近畿大学(過)
摂南大学(過)
京都産業大学(過)
酪農学園大学(過)
公立鳥取環境(過)

高校野球に挑戦することも同じことだ。確かに、私学に進むような選手達は高い才能を持っている。しかし、上記の考えからするとそれだけでは選手としてのレベルが高くなるとは限らない。だから、飛び抜けた才能ではなかったとしても、「考え方×行動×夢」の数値が高ければ総合的なレベルで勝ることが出来る。一見、野球に関係のないような人としての力や行動を高めることや、大きな夢を明確に持ってそれに向かって努力することは、野球選手としての成長と野球を通して人として成長することにつながっていく。

もうひとつ大切なのが「和」の力だ。野球を通じて手にする人の力はとてつもなく大きく、その力があってこそ自分は大きく成長する。永嶺高校野球部の部訓「和は力」が意味するものだ。

才能（素質）×努力×考え方×行動×夢×和＝

永嶺高校野球部として「求めているもの」は間違っていないとあらためて思う。

○「グラウンドの練習は生き方の練習」

野球を教わってきた自分から、野球から教わる自分へ。高校野球は実に多くのことを自分に教えてくれる。自分に挑戦すること、逃げないこと、立ち向かうこと、努力することの価値、逆境（ピンチ）に立ち向かうこと、力を合わせること、励まし合うこと、仲間との絆、人を支えること支えられること、多くの人たちへの感謝の気持ち、親の思いと親への思い等々。

「グラウンドの練習は生き方の練習」それを感じさせる野球部でありたい。それが「甲子園の心」だと信じて一生懸命に野球をやっている。 そうした野球を続けたら「甲子園が迎えに来る」と信じて野球をやっている。